

平成22年5月23日 (4班 南流山センター)

## 議会報告会アンケート集計結果 10件

テーマ「地域課題について考える」	回答
当市は立地条件(都心と学園都市)に大変恵まれており、自然環境も大変良い。これを生かした人口誘致、企業誘致をもっと目に見える形でやるべきだ。関西地域に遅れを取っているようで、昔からの農村都市の意識が抜けきらないようでのんびりしている。もっとも住むには大変良い。	人口誘致については、ターゲットを「DUKES(共働きの子持ちの夫婦)」とし、本年1/23に毎日新聞でも報道されたように、ここ3年間で人口が1万人増加しています。この取り組みは5月末から6月初旬にかけてNHKでも取り上げられています。企業誘致については、本年4月より、総合政策部内に誘致推進課が新設され、職員3名体制で企業誘致に日々取り組んでいます。市では、人口誘致用と企業誘致用のパンフレットやプロモーションビデオを作成して、目に見える形で誘致活動をしています。
地域のハード面の解決を望む ゴミの集積場 掲示板 防犯灯等行政管理 地域のソフト面 高齢者に対する安心対策、施設等の孤独老人	おそらく、当日会場で直接ご質問いただいた内容と推察されますが、もう少し具体的に(場所、何が問題なのか等)、ご指摘ください。
駐輪場の管理費 市の直営、千円で12回利用できる金券化 市の委託、現金100/1日  同一市内で何故対応が違うのですか。  市内の公園に鉄棒の設置(ぶらさがり健康法)	南流山駅周辺自転車駐車場の一時利用券制度導入については、担当課に問い合わせたところ、「駐輪場の管理運営者(財)自転車駐車場整備センターと協議します。主な問題点はT×3駅では一部コインポスト方式で運営しているため回数券制度を導入することは難しいけれども、他の駐輪場同様に回数券制度導入に向けて検討しています。」と報告がありました。次に、老朽化した公園遊具の更新や新設についても、担当課に問い合わせたところ、「地元自治会と協議しながら設置をしているが、最近の傾向は、公園遊具の設置よりも多目的に利用できるオープンスペースを求める声が多いため、ぶらさがり健康法のための鉄棒設置は困難です。市民の健康増進についてはヘルスアップ事業を始め、健康、体力づくり事業を推進しています。」とのことでした。
障害者が地域に支えられて、希望をもって共に生きていかれる市に！偏見のない市民に！ 精神障害者1400人 四葉会所属	まさにそのとおりで、お互いに理解し合いノーマライゼーションの地域をつくっていきましょう。
地域のまちづくりイメージが共有されていない、また、具体化するための誘導システムなどが不備、結果として「できちゃった都市計画」になっている<特に南流山周辺>魅力と特徴ある都市を作るため、やるべき事は多い、人口をふやしたその後を考えているのか。	都市計画マスタープランの策定過程で、ワークショップ形式を用いて、地域の方々からの意見も伺っています。人口増加後に発生する課題については、行政内や議会内でも話題となっていますが、その地域に住む市民の方々も一緒に考える課題であると思います。
地域を形作っている歴史や地形、文化、長く時代を生きて来て地域の顔ともいえる風景、建物はその地域の宝で有り、それを生かし残して、未来にその宝を引き継ぎ、流山らしさ、鱈ヶ崎らしさを残していったほしい。	都市計画に沿った形で、流山らしさ、地域らしさを追求していきます。
30代40代の人口が増えている、若い世代を参加してもらおう自治会活動、地域作りをどうするのか、市政への参加も含め。	そのとおりだと思います。地域(自治会)の皆さんが自らの課題として捉え、若い世代にどうすれば関心を持ってもらえるか皆さんで話しあってください。議会としてもサポートは惜しみません。
私は自治会には入っていない、私のアパートの住人も同様、地域活動というか、働き盛りの人口が増加しているが、その層が自治会にも入会していない、魅力ある街に彼らをどうするか。 議会の動き 全くわからない、選挙の時、名前は見るが顔を見るのは初めて。	「彼らをどうするか」ではなく、ご自身がどうされるかだと思います。議会の動きについては、議会だよりやインターネットのホームページで情報を発信していますので、ご覧いただければ幸いに存じます。また、報告会は今後も定期的開催する予定ですので、積極的なご参加をお待ちしております。
宮園在住の者です。八木中学校を中心とした行政区域区分の中での「交通環境整備(特に通学路)」危険ヶ所多い、道路水はけ悪い。	もう少し具体的に場所等を、ご指摘ください。
市中心部の森、緑地が急速に失われている。おおたかの森は市野谷の森林全体の大きな縮小はあったものの残された。しかし、思井の森は現在の計画では消滅し、宅地に切り売りされることになっている。運動公園は一見緑地のように見えるが、航空写真で見ると森を形成してはいることが明白である。このような状況で思井の森は、流山中心部に近い非常に貴重な森である。流山市は「水と緑の町」といい、最近「都心から最も近い森のまち」と、昔からの姿を説明しているが、将来現在の計画がそのまま進められると、それはうその宣伝文ということになる。思井の森は流山にとっては「貴重な財産」と認識すべきと有る。それを残し散策路も整備し、市民がなごめる森として、活かすことを考えるべきである。思井の森は貴重なおおたかも住んでいる。	思井地区の斜面緑地については、土地区画整理事業の主体者である千葉県が環境影響評価で保全するという事になっています。なお、森林については、区画整理事業が既に10数年前にスタートし、思井地区については開発をするという地域となっているため、これを変更するのは極めて困難です。ただし、「都市計画道路3・1・1号線の見直しに伴って、土地区画整理事業の変更があるので、緑地部分を少しでも厚くするという事を千葉県に働きかけていく。」と、6月議会の一般質問で市長が答弁しています。